

むさしのヒューマン・ネットワークセンターだより



Vol.49

2014年 11月25日

Contents

- トピックス（今年は104位。世界から見る日本の男女平等の現状）・・・①
- 講座報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・②～③
- 講座予告と事業報告・・・・・・・・・・・・④
- 新着図書一覧・・・・・・・・・・・・・・⑤
- 新着図書内容紹介&各種利用案内・・・・・・・・・・・・⑥

トピックス

今年は104位。世界から見る日本の男女平等の現状①

GGGI（世界ジェンダーギャップ指数）は経済、教育、健康、政治の4分野においてジェンダーによるギャップ（男女格差）を見える形でとらえた指数で「格差がない状態の指数を1.0として数値化されたものです。2006年の世界経済フォーラム（ダボス会議）で創設され、毎年秋に発表されています。

日本は2006年80位を最高に2010年以降は4年連続下降傾向でしたが、今年2014年は1位上がって対象142か国中104位となりました。経済分野で104位から102位と多少上昇したものの残り3分野は昨年からまた下降状況です。が算出データ別にみると1位（☆）が3つあることは喜ばしいことです。

<健康分野>

日本女性の平均寿命は86.61歳、男性は80.21（2013年）と世界トップクラス、健康寿命は女性の74.21歳、男性は71.19歳と世界一です。日本女性は寿命が尽きるまでの12年以上を健康でない状況で暮らしているのです。厚生労働省は健康長寿社会の実現として2020年までに健康寿命を1歳以上延長すると目標を掲げています。また、女性の活躍を成長戦略に結び付けるために、働く女性の視点や貧困や暴力等社会的要因をこうむっている女性への健康支援等を盛り込んだ「女性の健康の包括的支援に関する法律」を検討するなど政府の取り組みも積極的に行われています。一方で、武蔵野市で言えば乳癌の受診率は15.3%、子宮がん検診は31.9%であることからしても、女性自身の健康への関心が薄いことにも原因があるかもしれません。

分野	ランク (2013)	算出データ
政治	129 (118)	<ul style="list-style-type: none"> 国会議員に占める比率 閣僚の比率 最近50年の国家元首の在任年数
経済	102 (104)	<ul style="list-style-type: none"> 労働力 同じ仕事の賃金の同等性 所得の推計値 管理職に占める比率 専門職に占める比率
教育	93 (91)	<ul style="list-style-type: none"> 識字率（☆） 初等、中等（☆）、高等教育の各在学率
保健	37 (34)	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の男女比率 健康寿命（☆）

<教育分野>

この分野では大学などへの高等教育の進学率が問題です。日本では学費が高い割には、国内総生産（GDP）に占める教育機関への公的支出の割合は3.6%で、加盟国で比較可能な30カ国中最下位となっています。（経済協力開発機構（OECD）「加盟国の教育状況の調査」2010年）

2013年NHK放送文化研究所「日本人の意識」調査によると「現在中学生の子供がいるとしてどのレベルまで教育を受けさせたいか」という設問に対して女子へ大学、大学院進学を希望する親の割合は年々上昇しているものの60.4%、男子の場合は、76.7%とまだまだ差があることから学費に見合う進路が女性にはまだ十分に開けていないという意識の表れかもしれません。

政治分野、経済分野については次回号（2015年3月発行予定）で取り上げる予定です。

講座報告



講座「小さい子どもをもつお母さんのための講座」

- ◆日時：平成26年10月1日(水)、8日(水)、22日(水)
10:00~12:00
- ◆会場：市民会館
- ◆講師：加藤千恵さん(東京女学館大学教授)



子育て中のお母さんを取りまくさまざまな思い込みから自由になるために、女性学の視点で自分自身や夫や子どもを見つめ直し、参加者同士が自由に語り合い学び合うために保育付きの講座を行いました。

講師の加藤先生からは男性と女性は「生まれつき違う」から違うのか、「扱われかたが違う」から違うのか。どちらで考えるかによって、答えは変わってくるのでは、との問いかけが最初にありました。私たちはこれまで「男は〇〇、女は〇〇」という「ジェンダーのメガネ」をかけていたと気がつく、メガネをはずして物事や相手や自分を見ることができるようになります。そうなれば考え方や生活、子育てや夫との関係、人生やキャリアが変わることがあるとの講師の話に、参加者から「母親になって改めてジェンダーを学ぶ」といろいろな問題が見えてきて勉強になる。ジェンダーにとらわれず、子育てができれば子どもの将来もいろいろな可能性が広がる」との感想が寄せられました。



また、社会の構造や仕組みをジェンダーに敏感な視点でとらえ直すことで、セクハラやDV、育児ストレスなどの問題点が明らかになり、新しい価値としての男女共同参画社会やワーク・ライフ・バランスの考え方が作りだされてきています。現在育児中で復職予定の方からは「今後の働き方や家事、育児とのバランスについても悩んでいる。自分らしいワーク・ライフ・バランスを目指し頑張りたい」とのコメントもありました。

最後にこれからの5年後10年後の私にとってのワーク・ライフ・バランスを表に書きこみ、参加者が今何をすべきかの“気づき”のきっかけになったところで三回の講座は終了しました。1月には、この講座に参加されたお母さん達の同窓会を計画しています。

出前講座「武蔵野大学デートDV講座」

- ◆日時：平成26年11月11日(火) 14:40~16:10
- ◆会場：武蔵野大学 1号館1101教室
- ◆講師：西山さつきさん(レジリエンス副代表)



デートDVとは、交際中の若いカップルの間で起こる暴力のことです。

対等であるべき関係が力の差が生じた上下関係となっている、上となったものが下に対してコントロール(支配、強制)をかけてくる、コントロールを強化する方法として用いられるのが暴力。

この場合の“暴力”には身体的暴力だけではなく、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、デジタル暴力とさまざまな形の暴力が含まれています。

参加者は講義を聞くだけでなく、それぞれが考えて話し合って発表することで、他人事ではなく自分の事になったような気がします。また、コーヒーに砂糖を入れるか入れないか、というカップルの会話で



DVのロールプレイをしました。その感想では男性は「楽しい。」女性は「威圧的で怖かった。」互いを尊重する会話とは、自分の考えもOK、相手の考えもOKでただ違っていただけ、両方がいいよね、という考え方であり話し方。家族や友達や恋人の関係性は常に尊重がベースとなります。尊重を伸ばしていくことで結果として暴力を減らすことができるかもしれません。

DVに対応できる大人は10人中3名と言われています。諦めないで相談できる大人とつながってほしい。暴力は遺伝ではなく学ぶもの、健全な生き方も学ぶもの、健全な生き方を沢山吸収して良い大人になってほしい、との西山さんからのメッセージで講座は終了しました。

講座 「思春期の恋愛と性」

◆日時：平成26年11月8日（土） 10：00～12：00

◆会場：武蔵野プレイス3階 スペースC

◆講師：大田静香さん（東京都助産師会助産師：武蔵野市助産師会会長、「いのちの授業」委員長）



長年、都内の幼・小・中・高校で「いのちの授業・性教育」を行ってこられた大田さんより命と性に関する親の対応についてお話をいただきました。学校での性教育のあり方や家庭での意識の差の中で、性に対する正しい知識をしっかりと持たないまま大人になっていく今の子供たちは自己肯定感が低いというお話から始まりました。「孤独を感じる子」（15歳を対象）は日本では約3割もいて先進国27ヶ国では最下位だそうです。自己肯定感を高めるには、命を大切にすることがまず必要であり、自分自身を大切にすることがなにより大切です。

性に関する様々な情報がインターネットなどで簡単に得られる時代。性的な成熟が早まっている一方で基本的なところで性に対する意識が低い今どきの子供たちに親は何をどのように伝えていけばよいのか、グループで話し合いました。「妊娠や精通などについてことあるごとに話しているにも関わらず理解していないようだ」、「男の子の性の話を母親が聞くことが難しい」などが出されました。

また、講師のレクチャーで妊娠・出産から始まる

「性」の流れを親自身が改めて振り返り、思春期の性行動と妊娠、性感染症やデートDVなど性被害のリスクを子どもにどう伝えていくか考えました。

一人ひとりの子供がいかに愛されて育ったかということ折に触れ伝えつつ、年齢に応じた性教育の内容やタイミングを意識しながら、日ごろから子供ときちんと向き合うことの大切さを学びました。

<参加者の声>

子供に対して親や先生がしっかりした言葉でごまかさずに話すことの大切さを感じました。

出産からの性の話を初めて聞き、性と命が生涯つながっていることを実感しました。



子どもの生まれた時からの成長の様子を振り返りながら熱心に耳を傾けるお母さんお父さん。

講座「ワークライフバランスを目指す 男性の生活力アップ講座 家事場で力を発揮できる男になろう」

◆日時：平成26年10月26日（日）、11月16日（日） 14：00～16：00

◆会場：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室

◆講師：子育て主夫ネットワーク レノンパパ（浅田さん、梶さん、佐久間さん、堀込さん）

10月26日の第1回目、グループワークでは「パートナーの気持ちをフォローするために夫は何かができるか」を話し合いました。「手が足りない時のフォローが必要、そのためにも体力作りが重要だと思う」「感謝の気持ちを述べる」「家事・育児は終わりが見えないので、自由な時間を作るなどミニゴールを設定する」などが出ました。

講座の最後に今日の話し合いを受けて「宣言」を参加者全員が発表しました。「気付いて欲しいではなく言葉で伝える」、「振り返ると子どものことばかりで、パートナーのことはほったらかしだった。両方大事にしたい」、「今日の講座で同じ悩みを持つ人が少なくないことがわかり安心した」、「これからは妻の話を良く聞き、共感し感謝したい」等、とても前向きな宣言が出ました。

<参加者の声>

男性にとって仕事は「稼ぎを得る場」とすると同時に「キャリア形成・自己実現の場」として過度に依存していることが、大きな課題だと感じました。

面白かった。男性、女性がお互いの気持ちを理解し合うことが今の社会にとって不可欠だと感じました。



グループに分かれての話し合い。普段話せないような事でもここには……。



私たちのグループではこんな話が出ました。



講座予告

申込
受付中

『Girl Rising上映会』

平成26年12月7日(日)

1回目10:00~12:00

2回目14:00~16:00 プレिसフォーラム

途上国の女の子の現実と希望を描いたドキュメンタリー風オムニバス映画の上映会です。映画を通して世界の女の子の実情から女性の人権や教育の必要性をあらためて考えてみたいと思います。

『文京区から学ぶ条例づくり講座』(仮)

平成27年2月12日(木)

文京区は平成25年11月1日「文京区男女平等参画推進条例」を施行。前文に「青鞥」発祥の地であることを掲げ、学校教育、生涯学習などあらゆる教育の場に男女平等参画意識の形成をめざす取り組みを基本としています。この条例制定に尽力された堀内光子さん(文京学院大学大学院教授)をお招きして具体的な条例づくりの道筋を学びます。

女性の健康講座

『ずっと輝いていた女性のための健康とキレイの話』(仮)

平成27年2月28日(土)

今まさに女性の活躍推進が求められる時代。どんな環境にあってもいつまでも心身ともに元気でキレイに過ごすためにどうしたらよいか考える講座です。対馬ルリ子女性ライフクリニック 院長の対馬ルリ子さんに、女性のライフステージごとの体の変化を確認しながら、輝くための健康とキレイを得るお話をいただきます。

『～我が子が思春期の親たちへ～

あなたの力と我が子のチカラを信じよう!』

平成27年2月7日(土)

我が子が思春期になったとたん、子育てに及び腰になっていませんか。思春期の今こそ、もう一度真剣に子どもと向き合うタイミング。子どもと一歩進んだ信頼関係を築く秘訣は、親の「大人生活」にあります。講師は、イクメン、民間企業の社長、NPO法人の代表という3役をこなしつつNHK、読売新聞、アエラなど頻りにメディアに登場し、全国各地で講演活動をしている川島高之さんです。

『あなたが見つける

もう一つのキャリア』(仮)

平成27年2月21日(土)

あわただしい毎日の中でも、暮らしをもっと充実させたいあなた。ご自分の個性や趣味からもうひとつのキャリアを始めるキッカケを探しませんか。そのためのコミュニケーションのスキルアップを学ぶ講座です。

報告 8月22日 議員懇談会が行われました

11名の議員の参加をいただき、協議会会員9名と意見交換が行われました。今回は、第三次行動計画にも明記された「男女共同参画条例(仮称)の制定検討」を主なテーマとしてとりあげました。条例制定へ向けて期待すること、制定へ向けたプロセスについて、条例のもつべき視点、議論の進め方、内容についての提案など、議員の方々のご意見を聞くと同時に協議会側の考えを伝えることで、お互いの今後の活動へつながる貴重な場となりました。(むさしの男女共同参画市民協議会)

パネル展示

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは次の2つのイベントにパネル展示で参加しました。

- 第13回子育てフェスティバル
11月1日 武蔵野スイングホール
- 平成26年度「東京ウィメンズフォーラム」
11月7日~8日 東京ウィメンズプラザ



●DV防止パネル展

女性に対する暴力をなくす運動(毎年11月12日~25日)の一環として11月14日から17日まで、武蔵野プレイスで実施されました。12月12日から17日までは武蔵野市役所ロビーで行われます。

新着図書一覧

むさしのヒューマン・ネットワークセンターでは本の貸出をしています。登録すれば、一人3冊まで、2週間借りられます。ホームページ上でいつでも蔵書一覧が閲覧できます。お探しの本が見つかるかもしれません。どうぞご利用ください。

書名 (50音順)	著者	出版社	出版年
愛と暴力の戦後とその後	赤坂真理	講談社現代新書	2014
市川房江と「大東亜戦争」	進藤久美子	法政大学出版局	2014
上野千鶴子の選憲論	上野千鶴子	集英社新書	2014
映画から見える世界 ～観なくても楽しめる、ちづこ流シネマガイド	上野千鶴子	電子本ピコ第三書館販売	2014
おんなの思想	上野千鶴子	集英社インターナショナル	2013
奥様は愛国	北原みのり	河出書房新社	2014
女の子よ銃を取れ	雨宮まみ	平凡社	2014
男が育休を取ってわかったこと	池田大志	セブン&アイ出版	2014
家族をこえる子育て ～棄児、離婚、DV、非行…を救うセーフティネット	渥美雅子	工作舎	2014
共依存	信田さよ子	朝日文庫	2012
ケアの倫理～ネオリベリズムへの反論	F. ブルジエール	白水社文庫クセジュ	2014
子育てがプラスを生む「逆転」仕事術 産休・復帰・両立、 すべてが不安なあなたへ	小室淑恵	朝日新聞出版	2014
子どもに「ホームレス」をどう伝えるか いじめ・襲撃をなくすために	生田 武志他	太郎次郎社エディタス	2013
子育て支援の社会学	松木洋人	新泉社	2013
子は親を救うために「心の病」になる	高橋和巳	ちくま文庫	2014
女子と就活 20代からの「就・妊・婚」講座	白河桃子+ 常見陽平	中公新書ラクレ	2012
社会政策の中のジェンダー	木本喜美子ほか	明石書店	2007
女性の健康と働き方マニュアル ワークライフバランスとヘルスケア	女性の健康と メノポーズ協会	(株) SCICUS	2012
弱者はもう救われないのか	香山リカ	幻冬社	2014
生活保護リアル	みわよしこ	日本評論社	2013
姓と性	高田知波	翰林書房	2013
男子の貞操	坂爪真吾	筑摩書房	2014
ハウスイフ2. 0	エミリー・ マッチャー	文芸春秋	2014
母という病	岡田尊司	ポプラ新書	2014
無頼化した女たち	水無田気流	亜紀書房	2014
ホワイト企業 女性が本当に安心して働ける会社	経済産業省	文芸春秋社	2014
「メス」失格	対馬ルリ子	講談社新書	2010
森美術館問題と性暴力表現	ポルノ被害と性暴力を 考える会 他	信山社	2013
LEAN IN	S.サンドバーグ	日本経済新聞社	2013
ワーク・ライフ・バランス支援の課題 ～人材多様化時代における企業の対応	佐藤博樹 武石恵美子	東京大学出版会	2014
「若作りうつ」社会	熊代亨	講談社現代新書	2014

新着図書紹介

センターの図書コーナーより

今回は、最近購入された本の中から、センターの図書会議メンバーが選んだ4冊をご紹介します。

『男が育休を取ってわかったこと』

池田大志著 セブン&アイ出版

著者は大病院の勤務医で、職場の男性育休取得者第一号。彼の半年間の育休のすべてがここに 있습니다。たそがれ泣きの合間、家事にアタフタしたり、日々の家族の献立に頭を悩ませたり、育児ストレスで追い詰められたり、すべてを経験するなかで、子どもと過ごす楽しさや日々の小さな発見も素直に語られていて、温かい気持ちになります。後半は皮膚科医の専門を生かしたベビー・スキンケアの極意も。育児中の方には“二度美味しい”本です。(石井)



『男子の貞操』

坂爪真吾著 ちくま新書

男性が自分の言葉で性を語り、性とのつきあいを自分で決めるにはどうすればいいか。社会の性問題解決に取り組むNPO法人の代表である著者が、新しいセックス論を提示します。

現在の日本では男子に対する本当の意味での性教育はほとんど行われていません。日常生活の中で男子が直面する性に関する問題は、誰からも教えてもらえないのです。仕方なく俗説を信じたり、巷にあふれるいかがわしい情報に頼ったりします。そのため、間違いだらけの性行動をとることになり、それは人生にも大きな影響をあたえます。そうならないためにこの著書は目を開けてくれます。(内藤)

NO IMAGE

『市川房江と大東亜戦争』

フェミニストは戦争をどう生きたか』

進藤久美子著 法政大学出版局

あの市川房江さんですら、全面戦争下の日本で、戦争協力の立場でなければ汚職議員を追求し、女性の主体的な活動の場を求め続けることができずして。戦後彼女が公職追放のち国会議員として国民に支持された理由は彼女なりの最善を尽くした活動にあります。とてもわかりやすい文章で、ドキュメンタリーのように当時の空気が伝わってきます。日本の現状を歴史的な文脈で認識するための最善の資料となる本です。(砂川)



森美術館問題と性暴力表現

森美術館問題と性暴力表現
芸術の名において性暴力は許されるのか？
各編で取り上げられた市民団体による異議申立て待望の刊行!

『森美術館問題と性暴力表現』

パルノ被害と性暴力を考える会編 信山社

「会田誠展」で性暴力表現をいわば“支持した”森美術館の問題。パルノが容認されているこの日本で、芸術の権威が支持する性暴力表現に、市民としてどう異議申し立てをするべきなのでしょう。今できることは、ジェンダーの視点を備えて、表現の自由を深く解釈し、差別の正体を示すこと、に尽きています。本書では様々な論者がじっくりと論考展開しています。(三上)

● センター利用案内 ●

開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
休館日：日曜日・祝日、年末年始
会議室利用時間：

- 《午前》10:00～13:00 《午後》13:30～16:30
- 利用料無料。2カ月前より予約可。ひと月二回まで●
- フリースペースはどなたでもご利用頂けます●

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター2階
電話/FAX：0422-37-3410
E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>
見やすくなりましたので是非ご覧ください！

秘密
厳守

女性の悩みごと相談

-ひとりで悩まずに、まずは相談を-

無料

- 女性総合相談…50分まで面談または電話・予約制
第2木曜日(10:00～、11:00～)
第4火曜日(13:00～、14:00～、15:00～)
- ★場所・問い合わせ
市民活動推進課市民相談係(市役所西棟7階)
☎60-1829 ☎60-1921(予約専用)
- 母子(ひとり親)・女性相談
月～金曜日(9:00～17:00 祝日・年末年始を除く)
- ★場所・問い合わせ
子ども家庭支援センター ☎60-1850

ご存知ですか。『まなこ』

武蔵野市の男女共同参画の冊子です。No.92が12月上旬に発行されます。今回のテーマは「多様な性を考える」。当センターはじめ市役所、市政センター、図書館、コミセン、駅等市内の約450か所に置かれますので是非手に取ってご覧ください。